

カップのリッド（蓋）について思うこと

－ リッドにはまだできることがある －

リッドはときとしてカップ以上に存在感を発揮するのですが、しっかりした紙コップと飲み口の開いたリッドは、今や毎日見かけるポピュラーなアイテムです。その発祥は米国の SOLO CUP 社から生まれた厚紙カップとトラベラーリッドの組み合わせですが、初めて目にした時の衝撃は、未だに忘れられません。とにかく機能美に圧倒されました。この商品を扱いたいと本心から願ったものです。

特にトラベラーリッドは、紙コップでコーヒーを楽しむ文化を根付かせた商品であり、コーヒー市場の進化発展に大きく貢献しています。テイクアウトシーンを演出し、誰もが居ながらにしてコーヒーを楽しめる世界を実現しました。トラベラーリッドを手にするると、商品開発にどれほどの知恵と熱意が込められているかが理解できます。材質や形状とシート厚から生まれる基本性能があり、常識を超えた飲み口や、カチツと音で判る確かな勘合性は、成形技術の高さから生まれます。トラベラーリッドを見て思うのですが、刻印された SOLO のロゴマークには、2文字目の **○** の中に紙コップ、4文字目の **○** の中にインサートカップがシャープに刻まれています。裏面を見ると一層明瞭です。



SOLO トラベラーリッド 裏面

大量生産の過程で不良品の発生が防ぎきれないのも事実ですが、素直に商品の開発力は素晴らしい。そして開発以来、四半世紀以上の時を超えて未だに主役であり続けている。

しかしその SOLO CUP 社も企業としては消滅し、ブランドとしての価値も失われていきました。

この SOLO トラベラーリッドを超える商品はなかなか探せなかったのですが、成型技術や機能美から見ても肩を並べるものと考えられるリッドが見つかりました。“Dome Traveler Lid（ドームトラベラーリッド）”と呼ぶべき斬新な



輸入した飲み口付きトラベラーリッド

スタイルのリッドで、8oz と 12oz を並べて横から見ると、カルガモの行進のようで実にユーモラスです。一目見て、実際に触れてその機能美に感心しました。シートが厚いので口をつけて飲みやすく、ドーム形状から立ち上がった飲み口は、口を付けたときにこぼれ難く安心感があります。安来節のお面ではないですが、飲み口の突き出た形状もユーモラスな一因でしょう。勘合は SOLO トラベラーリッドと同様に内と外で挟み込む二重勘合です。飲み口は SOLO と同じく開放タイプですが、飲み易さは秀でています。

後にそのメーカーから発売されたのがノーストローリッドです。A-PET カップに合わせた飲み口のあるリッドですが、これにも感心しました。元来漏れないように嵌めるリッド（蓋）ですが、SOLO トラベラーリッドが常識を打ち破り、今回はストローを使わずに飲めるリッドが登場しました。輸入すると瞬く間に販路が拡大したのです。ストロー公害としてウミガメの画像などが拡散したこともあり、追い風となった面もありますが、明らかに市場のニーズが変わって来たと感じています。



画像はノーストローリッド（上）と HONER HTB12 の組み合わせ（右）です。

そして新しいリッドの開発を始めました。現在カフェグッズでは TAPS CUP の販売に注力しています。A-PET カップでは、他社製品と同じ 92φでも微妙な違いがあります。リッドを嵌めて口をつけて飲むときはカップを持ち上げます。成型が甘く、シートが弱ければ、飲み物を浴びるリスクもゼロではありません。グローバルスタンダードでは各メーカーが自社製品の品質に責任を持ちますが、他社製品との組み合わせに対する保証はありません。販売者が保証するのですが、時には嵌合不良が発生することもあります。できればカップとリッドを同じメーカーで揃えたい、そしてこれ以上は無いというレベルの嵌合性で安心感のある製品を作りたいと思っていました。その製品の製造が間もなく始まります、それが**カフェグッズオリジナルの“Strawless Lids for TAPS CUP”**です。私の経験から学んだノウハウをいくつも投入しています。

その一つですが、一番に飲みやすさに拘りました。



Lidus + HTB12 流出の様子



NewLid +TAPS 流出の様子

飲みやすさは飲み口からの液の流れ方に表れます。流れがスムーズで、トクトクといった水流の乱れを防ぐことに、特に留意しました。

現在は最終サンプルの製作段階で詳しくはお話しできませんが、本金型の製造を経て、本製品の販売を早ければ8月下旬に始めたいと考えております。改めてご案内させていただきます。

© 2022.07 Cafegoods Co., Ltd. 小林 文夫